

RPPC メールマガジン 第 836 号

リサイクルポート推進協議会（令和 2 年 8 月 19 日）

■事務局からのお知らせ

NPO 法人山形県リサイクルポート情報センターのメルマガを添付しました。

■リサイクルポートに関連する最新の情報

1.洋上風力小委、4 基地港湾を大臣指定。秋田、能代、鹿島、北九州港。

国土交通省は 8 月 4 日、「洋上風力促進小委員会（委員長・来生新放送大学学長）」の第 6 回会合を開催し、基地港湾として秋田港、能代港、鹿島港、北九州港の 4 港湾の指定を了承した。指定された港湾では洋上風力発電事業者等に必要なふ頭用地の貸付を行うとともに、国が複数事業者の利用調整等を行う。

洋上風力発電の導入拡大に伴う基地港湾指定にあたっては、港湾計画に長期貸付制度の対象となる岸壁、ふ頭用地（荷役、荷捌き、組立、一時保管場所）を「海洋再生可能エネルギー発電設備等の設置及び維持管理の拠点を形成する区域」として位置付けること等が条件となっており、4 港においては今年 2 月の港湾分科会で同区域を設定する港湾計画の一部変更が了承され、施設整備等が進んでいる。

2.北極海航路、産学官連携協議会を開催。運航支援 S、利用動向等

国土交通省は 8 月 3 日、「北極海航路に係る産学官連携協議会」の第 10 回会合を開催した。協議会は海運事業者、荷主等の民間企業と関係行政機関、研究機関等で構成。構成員からの北極海航路の最新情報に加え、昨年度に国土交通省と、海上・港湾・航空技術研究所海上技術安全研究所（海技研）で構築した最適航路探索のための運航支援システムのプロトタイプを紹介等を行い、産学官で意見を交換した。

3.大分港大在西 R O R O 岸壁整備、仮設土留め工から着手へ。

九州地方整備局別府港湾・空港整備事務所は、今年度新規着工が認められている大分港大在西地区の複合一貫輸送ターミナル整備事業で、このほど最初の現地工事となる仮設の土留工や消波ブロックの撤去等を内容とする工事の手続きに入った。同ターミナル整備では既設護岸の前面に重力式構造で水深9 ㍍ R O R O ふ頭2 バースを整備することになっている。

大分港では大在地区において水深7・5 ㍍岸壁が供用しており、内航 R O R O 船として東京港、清水港との間に定期航路が開けているが、両航路とも旺盛な貨物需要により取扱貨物量が増えているほか、新規航路の開設や就航船舶の大型化などが見込まれており、大在西地区に新たに展開する。

4.酒田港古湊3号岸壁の大型化要望、リサイクルポート機能の強化等

山形県は、令和3年度政府の施策等に対する提案の中で「酒田港の機能強化～やまがた創生を牽引する酒田港～」を要望している。新規事業では古湊3号岸壁の延伸・増深（耐震）を挙げている。

提案事項は、①日本海特有の冬期風浪による荷役障害等を低減するため、防波堤の整備・改良を着実に実施すること、②リサイクルポートとして金属くず輸出先の遠隔地化に必要な船舶の大型化に対応するため、また、増加が見込まれるクルーズ船の確実な受入れを行うため、既存岸壁の大型化（延伸・増深）に着手すること、③酒田港と県内陸部や太平洋側を結ぶ新庄酒田道路等について重要物流道路として重点的に整備を推進すること、としている。

酒田港は平成15年のリサイクルポート指定後、リサイクル取扱貨物量は順調に推移してきたが、中国、韓国における金属くずの受け入れが減退傾向にある。

これに対する取組みとして、県は金属くず等の輸出先の遠隔地化に対応した船舶の大型化や、合積みなどによる効率的な輸送について、国や他のリサイクルポートの港湾管理者等と共に検討を行っている。

【港湾空港タイムス 08月10・17日号から編集】

////////////////////////////////////

発行者：RPPC 広報部会

部会長：新谷 聡 りんかい日産建設（株）

部会員：山田 安彦 日本製鉄（株）

友歳 巖 五洋建設（株）

川田 延也 東京都

齋藤 憲雄 山形県リサイクルポート情報センター

リサイクルポート推進協議会 事務局

一般財団法人みなと総合研究財団（内） 担当：押田、清水、安田

URL: <http://www.rppc.jp/> E-mail: rppc_jimukyoku@wave.or.jp

////////////////////////////////////

■会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がありましたらご連絡ください。開催案内等の情報をメルマガで配信致します。

■メルマガ配信先に変更がある場合、事務局までご連絡ください。

■メルマガに関するご意見、ご要望がありましたらご連絡ください